

第76回彩の国建設工事の入札及び契約事務適正化委員会 議事録

1 日時

令和5年11月6日（月） 午前9時から11時まで

2 開催

ZOOMによるWeb会議形式

3 出席委員

齊藤委員長、小川委員、加藤委員、二宮委員、宮西委員

4 審議事項及び審議結果

(1) 案件1

ア 発注機関：水道整備事務所

イ 工事名：総選除)022水整第709号大久保浄水場生物活性炭吸着池基礎杭その2工事

ウ 入札方式：一般競争入札（総合評価）

エ 質疑応答：

委員：

同じ入札価格で入札している業者が多いが、設計金額が推測しやすいのか。

発注機関：

基礎杭の工事であり、工種が少ないことに加え、積算に必要な歩掛や材料の単価などが公開されているため、同じ入札価格が多くなっていると推測される。

委員：

低入札調査を行っているが、材料費と労務費などにあまり差がない。どこを削減しているのか。

発注機関：

経費などが削減されている。大規模で単一の工事のため、他の工事でも使用する同じ杭の一括購入や旅費などの縮減がしやすかったと考えられる。

委員：

6工区に分割することで効率が良い事業となっているのか。また、別の区分けについても検討しているのか。

発注機関：

施設が2つあるため、それぞれを1工区とする場合や、さらに分割していく場合が考えられるが、複数の工区を同時に工事する場合の機械の配置や搬入のルート、杭の設置場所を考えると6工区が一番効率良いと判断した。

(審議結果) 当案件の入札・契約事務手続きは適正に行われていた。

(2) 案件2

ア 発注機関：川越県土整備事務所

イ 工事名：(ゼロ債務) 総実加) 舗装指定修繕工事(狭山台工区)

ウ 入札方式：一般競争入札(総合評価)

エ 質疑応答：

委員：

Ｌ社は入札しているが、結果が無効と記載されている。無効となった理由はなぜか。

発注機関：

入札金額見積書に不備があったため無効になっている。

入札結果表にはすべての参加者を記載しているため、無効以外の入札参加申請を行ったが応札しなかった業者についても記載している。

委員：

なぜ区画線工を変更契約で夜間施工としたのか。

発注機関：

舗装工事については、交通量が多い路線になっており交通に大きく支障があるということで夜間施工としていた。区画線工事については、当初、舗装工事と比べて交通規制が少ないことから昼間施工でできると判断していたが、現場の交通量が多く昼間施工が難しいとの判断で、夜間施工に変更した。

委員：

打ち換える際、表層だけでなく路床、路盤の確認はしているのか。

発注機関：

切削する前にコア抜きを行った結果、下層までクラックが伸びている箇所はなかったため、2層の打ち換えを行った。定期的に路面の調査等をしており、劣化状態の悪い路線から順次舗装の打ち替えを実施している。

委員：

交通量や車種の変化はあるのか。

発注機関：

供用後から大型車交通量の多い路線となっている。交通量そのものも多い路線となっている。

委員：

実績重視型の総合評価で行っているが、どのような基準に基づいて採用したのか。

発注機関：

総合評価方式の中に、県が取り組む施策的な課題に対応する評価項目をあらかじめ重点的に配点した特定課題パッケージというものがある。その中で、実績重視型は、工事成績が安定しており、品質が適切に確保されると見込まれる工種に適用することとされている。評価項目を厳選し、施工実績等を重視することを目的としており、主に舗装工事業に適用している。

手持ち工事量を評価項目にしており、過去3年度間の受注額の平均を分母として、当該年度の受注額を分子とした指標になっている。そのため、当該年度に多く受注している企業は点数が低くなり、あまり受注していない企業は点数が高くなっている。

手持ち工事量の増加は各現場に対する会社のバックアップ体制や技術力、技術者の体制が脆弱になる可能性に繋がるため、総合評価として活用している。

(審議結果) 当案件の入札・契約事務手続きは適正に行われていた。

(3) 案件3

ア 発注機関：荒川左岸北部下水道事務所

イ 工事名：北部流域処理場4号焼却炉土木工事（2工区）

ウ 入札方式：一般競争入札（価格競争）

エ 質疑応答：

委員：

入札方式の地域の守り手育成型とは、価格競争入札ということか。

発注機関：

価格競争入札になる。通常の一般競争入札との違いは、地域を限定していることに加え、除雪などの災害協定を参加資格に入れていることと、応札可能業者数を10社に限定していることである。

委員：

災害協定を結んでいる中で、災害時に、実際に出動できる企業は確保できているのか。

災害時への体制を構築することは、県民の安全の確保に繋がるので良いと思う。

発注機関：

災害時、対応する企業は確保できている。

事務局：

地域の守り手育成型の一般競争入札については令和2年2月から施行している。対象業者は県と災害防止活動の協定等の締結、かつ、県との工事完成実績又は除雪実績がある建設業者を対象としている。また、協定は建設業協会と結んでおり、災害があった場合、協会を通して要請をしている。

地域守り手育成型の一般競争入札を適用する工事件数は、土木工事の約2割までを上限としている。

委員：

業者も利益も出しながら、いざという時に出勤してもらう、そういう体制を作ることがやっぱり重要であり、防災とリンクさせている入札は非常に良いと感じる。

発注機関：

入札課の制度設計のおかげであり、事務所としては今後も活用していきたいと思っている。

委員：

掘削を行ったところ地下水の湧水があり、対策を行うため変更契約を結んでいるが、杭を打設するタイミングでわからなかったのか。

発注機関：

ピットの施工面は地下10mほどにある。杭施工時は地表面から杭を打ち込む工事であったため、水位がわからなかった。ボーリングデータ等では想定できなかった。

(審議結果) 当案件の入札・契約事務手続きは適正に行われていた。

(4) 案件4

ア 発注機関：管財課

イ 工事名：22017本庄保健所大会議室棟ほか改修工事

ウ 入札方式：一般競争入札（価格競争）

エ 質疑応答：

委員：

事業概要からは難しい工事ではないように思えるが、なぜ入札参加者数が少なかったのか。

発注機関：

契約時期が11月と記載されているとおり、発注が遅かったと考えられる。発注が遅くなると工事を施工できる技術者数が少なくなるため、応札する企業も少なくなる。県では早期発注に取り組んでいるので、より早く発注するようにしたい。

委員：

前年度に設計委託を発注し、次年度に工事を発注しているが、設計施工一体型での発注であった方が、参加者が増えたのではないかという感想を持った。

発注機関：

今後は、そのようなことも視野に入れて検討していきたい。

(審議結果) 当案件の入札・契約事務手続きは適正に行われていた。